

黒田庄まちづくり協議会より 〈令和元年度事業の取り組み〉

… 前号の続き …

観光・特産部会

3 特産品の開発・PR

特産品開発グループ「黒っ娘おばんざい」は、地域の郷土料理や伝統食の製造販売、特産加工品の研究などに取り組んでいます。

毎週水曜日に黒っこプラザで、午前11時から午後1時頃まで巻き寿司や惣菜の販売、北はりま旬菜館・北はりま田園空間博物館で巻き寿司などを販売しました。また、老人クラブなどからのお弁当の注文も増えてきました。

今年度は、「黒っ娘おばんざい」ののぼり旗や横断幕を作成し、イベントの販売時にのぼり旗を設置して「黒っ娘おばんざい」のアピールや販路拡大に取り組みました。



北はりま旬菜館で販売



のぼり旗



横断幕

4 北播磨ふるさと環境体験ツアーに協力

8月19日(月)に北播磨県民局主催の北播磨ふるさと環境体験ツアー「自然環境学習コース」が北播磨地域の小学生4年から6年生とその保護者を対象に黒田庄地区で開催されました。

第1部の「みんなでさがそう！川の生きもの」では、参加者29名が大型バスで黒田庄に来て、黒田庄まちづくり協議会委員、黒田庄中学校生徒・先生、他にもお手伝いしていただいた方など28名と一緒に参加し、追い込み漁・網漁・瓶づけなど門柳川に生息する生物を見つける楽しさなどを体験しました。第2部の「巻き寿司体験」では、会場を黒っこプラザに移し、黒っ娘おばんざいのメンバーの指導のもと、巻き寿司体験をしました。



追い込み漁



寿司飯作り



親子で巻き寿司体験

広報部会

1 「黒田庄つうしん」の発行

地域住民に情報の発信をするため、毎月15日に「黒田庄つうしん」を発行し、全戸配布及び市内公共施設等に配布しました。

(2ページへ続く)



編集・発行
黒田庄まちづくり協議会
西脇市黒田庄町前坂2140番地
TEL 28-2121
令和2年6月15日発行



黒田庄地区の人口

(R2.6.1現在)

男 3,202

女 3,423

計 6,625

世帯数 2,630

人口前月比 (+2)

(2)

2 Facebookなどの作成

黒田庄のイベントや観光などの情報を広く発信するため、Facebook と Instagram を随時投稿しました。

3 黒田庄まちづくり協議会のPR

12月8日(日)に「日本のへそ西脇子午線マラソン大会」が開催されました。黒田庄まちづくり協議会広報部会で黒田庄のPRチラシを作成し、出場選手には受付時に配布する封筒の中に入れ、来場者には黒っ娘おばんざいの出店場所で配布しました。



黒っ娘おばんざい出店場所でチラシ配布

その他事業

1 国道175号西脇北バイパス部分開通イベントに協力

2月3日(日)に国道175号西脇北バイパスの部分開通(寺内～黒田庄町大伏間)イベントが開催されました。炊き出しコーナーでは国道175号黒田庄バイパス整備促進協議会(黒田庄地区区長会)の温かい豚汁の振る舞いに、黒田庄まちづくり協議会からも数名がお手伝いをして、あっという間に500食がなくなりました。

<令和2年度事業計画>

令和2年度事業計画では、まちづくりのための目標を“千年の風土を未来につなぐNEW黒田庄づくり”とし、参画する団体・人々が話し合い、自主的・主体的に計画を実践すると共に、様々な課題解決を目指し、各事業部会や協議会全体で次のような事業に取り組みます。



地域交流部会

第43回にしわき市・黒田庄夏まつりは、新型コロナウイルス感染症が深刻化している中、今年度の夏まつりは中止し、第10回黒田庄軽トラ市、各自治会の交流カフェづくりの支援、生涯学習・スポーツの振興・人権学習の推進などに取り組みます。

くらし安心部会

福祉送迎車の運行、防災体制づくり、防犯体制づくり(子ども見守り活動の推進)、高齢者等の健康づくり(インドヨガ教室)などに取り組みます。

観光・特産部会

黒田庄駅舎「あつまっ亭」周辺の活性化、観光レクリエーションゾーンづくり、特産品の開発・PRなどに取り組みます。

広報部会

黒田庄つうしんの発行、SNSを活用した黒田庄の情報発信などに取り組みます。

その他事業

- (1) 黒田庄まちづくり協議会に参画する団体等が事業を実施する場合に、その経費の一部を助成することにより、課題解決に取り組みやすい環境をつくれます。
- (2) 黒田庄まちづくり協議会構成団体であるそれぞれの団体等の活動に対して必要なときは、黒田庄まちづくり協議会としても連携して取り組みます。
- (3) 西脇市コミュニティセンター黒田庄地区会館及び西脇市黒田庄交流拠点施設あつまっ亭の指定管理業務を行います。

★活動費助成申請について★

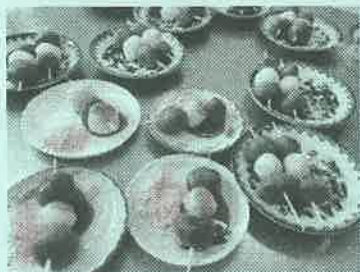
所定の申請書に必要事項を記入のうえ、7月10日(金)までに、黒田庄まちづくり協議会(黒っこプラザ内)に提出してください。



虹の会工房 就労継続支援B型&生活介護&グループホーム

新型コロナウイルスが世界的に流行し、県内の身近なところでも感染者情報がありました。緊急事態宣言が発令され、当事業所でも感染拡大防止に努めてきました。5月21日に宣言は解除され日常の生活に戻りつつありますが、引き続き手洗いやマスクの着用をして作業や活動をしていきたいと思ひます。これから梅雨に入りますが、天気の良い日を見計らって外にも出かけたいと思ひています。

(文責 坂田)



生活介護のチャレンジでだんご作りをしました。
春に摘んだヨモギを使って色鮮やかなだんごが出来ました。
皆さんも工房特製の“おやき”で旬の味をご賞味くださいね。

食後のデザートに冷たいスイーツも販売しています。
お菓子の注文もお受けしています。
どうぞよろしくお願ひいたします。

<黒田庄こども園ニュース>

<理事・監事・評議員の紹介>

今年度の黒田庄こども園 理事・監事・評議員は次の方々に構成されています。(敬称略)

理事長	藤原 悟	
職務代理	上月重宏	
監事	村上明廣	坂本政和

住所	氏名	役職名	住所	氏名	役職名
小苗	藤原 悟	理事長	石原	吉本 豊	評議員
喜多	上月重宏	理事	田高	荻野芳樹	評議員
大門	藤井 建	理事	船町	大石 巧	評議員
津万井	石井能男	理事	小苗	津瀬秀一	評議員
福地	大谷増男	理事	黒田	森脇弘己	評議員
岡	松本芳和	評議員	前坂	坂本政和	監事
門柳	村上辰巳	評議員	住民代表 岡	村上明廣	監事
大伏	大山岩一	評議員	こども園	吉田和弘	理事
西澤	飛田正義	評議員			

黒田庄こども園理事・監事・評議員会は、「地域の子どもは、地域で育てる。」のもと、地元住民の方々の理解と協力を得て、子どもたちが安心して健やかに成長できるよう、区長会が中心となって運営されています。

就学前の子どもたちの保育・教育について協議いただき、園の円滑な経営と運営、心豊かな子どもたちの育成に寄与いただいております。

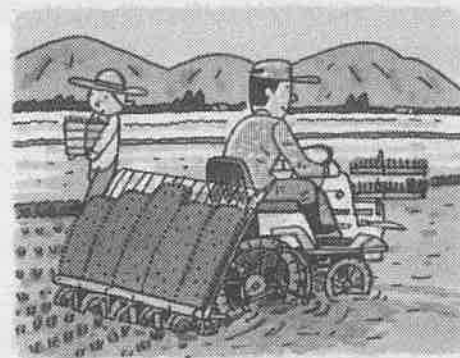
園児数は134名でスタートしますが、途中0歳児等の入園があり、141名の予定で今年度のこども園の教育・保育活動を推進していきます。

(4)

「助けて」という言葉にこめて <西脇市人権教育課>

「水無月」は、「水の月」という意味で、田植えの済んだ田に水がいっぱい張られる6月を表す言葉です。

さて、田植えの風景も昔と大きく様変わりしました。今は、どの水田を見ても1~2名で田植え機による植え付け作業を行い、あっという間に田植えが済んでいきます。女性や子どもの姿はほとんど見ません。昔を知る者にとっては、まったく味気ない光景となっています。



半世紀前の田植えを思い出してみましょう。まず、早朝より一家総出(近所の手伝いさんも交えて)で苗取りをします。わら1本で一握りの苗束をどんどん作り、苗取りが終わると田圃へ移動します。田圃



には、端と端を結ぶ形で、およそ1メートル間隔でシュロ縄が何本も張られています。その間にモンペ姿の女性が横一列に並んで入り、一斉に田植えを始めます。女性たちは、親指、人差し指、中指で器用に数本の早苗を挟み、シュロ縄とシュロ縄の間の持ち場に左から右へと手早く植え付けていきます。横一列が済めば、一步下がってまた植えるという作業を繰り返しながら、競うように田植えをしていきました。また、苗のなくなりかけた女性の近くに畔際から苗束を投げ入れていくことも男性や子どもたちの重要な仕事でした。このように当時の田植えは、子どもたちからおじいちゃん、おばあちゃんたちまで家族総出の大変な作業で、隣近所の人たちと助け合わないと到底できないものでした。

無縁社会が叫ばれる今日にあって、かつてのような家族のつながり、人と人とのつながりを望むことは無理なことなのでしょうか。平成24年内閣府「社会意識に関する世論調査」によると、東日本大震災後、家族や地域、友人などとのつながりや助け合いを強く意識する人が増えているとのこと。人と人とのつながり「絆」を取り戻すキーワードは、奥田知志(NPO法人北九州ホームレス支援機構理事長)さんによると、「助けて」だそうです。

「助けて」と言ったり言われたりしながら、新たな縁を結び、わが街西脇に「地域まるごと家族」を創り出せないものかと思います。

編集後記

本年度の夏まつりや花火大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、各地で中止が決定しております。西脇市最大の夏のイベント「へその西脇・織物まつり」、「にしわき市・黒田庄夏まつり」は中止、また、近隣市町では小野市・三木市・加西市・多可町なども中止が決定されています。

毎年、夏まつりや花火大会を楽しみにされている方にとっては非常に残念なことでしょう。

新型コロナウイルス感染の第2波が心配されますが、一刻も早く新型コロナウイルス感染症が収束することを切に願うものです。

Y. I